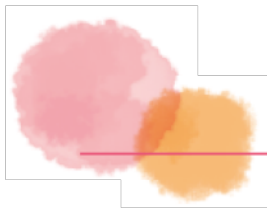


新生児の疼痛緩和のために シヨ糖製剤を使用するかどうかの意思決定

修士論文コース 看護管理学専攻
23MNO12 齋藤香織





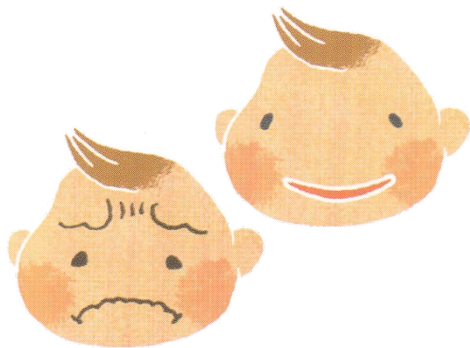
背景

- 集中治療の場で、患者・家族が治療選択をする場面は多くはない（ほとんどが説明・同意）
- 新生児の疼痛緩和のためのシヨ糖製剤の使用について、看護師主体で説明し意思決定を支援

CQ8.痛みを伴うベッドサイド処置を行う場合、処置前のシヨ糖の口腔内投与は 新生児の痛みを緩和できるか？

→医師の指示に基づき、足底採血・静脈穿刺・筋肉内注射の痛みの緩和に非薬理的緩和法(NNS・swaddling)との併用で使用することを提案する。**実施に際しては親の意向を尊重する**【エビデンスレベル強・弱い推奨】

新生児の痛みを緩和するための方策



痛みの程度を測定する



継続的な教育・学習



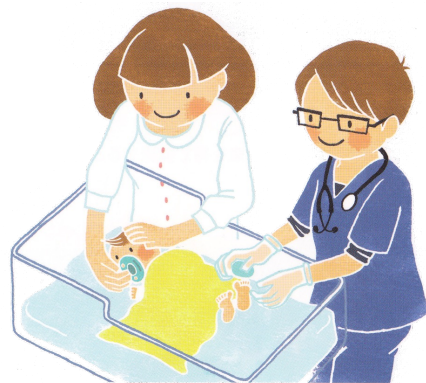
包みこみ



ホールディング



直接授乳



おしゃぶり



カンガルーケア



シヨ糖

シヨ糖の使用法

- 処置時の疼痛緩和に使用 点滴確保、採血（手背・ヒールカット）
- おしゃぶり、綿棒、ホールディングを併用



- ラットにシヨ糖を与えると β エンドルフィンが分泌される
- 人での機序は明確にされていない
- 多数の論文でペインスケールを低下させる効果

情報提供の実際



赤ちゃんの痛みを緩和するために



NICUでは治療のために点滴や採血などの痛みを伴う処置を行うことがあります。近年、新生児・早産児も痛みを感じていること、痛みに対応する力が未熟であること、繰り返される痛みは成長発達にも影響を及ぼす可能性があることなどがわかってきました。できるだけ赤ちゃんの痛みを減らすために、ご家族とも協力していきたく考えています。

☆処置時の痛みを緩和するために行っていること

- 赤ちゃんの状態に応じて、漏れにくい点滴（末梢中心静脈カテーテルなど）を使用し、点滴の刺し直しの回数を減らしています。
- 必要に応じて動脈ラインを留置したり、点滴をとるときに同時に採血するなどにより、できるだけ採血のために針を刺す回数を減らしています。
- 採血時の痛みを少なくするために、針や自動採血器（ランセット）を複数種類準備し、状況に応じて使い分けています。
- 状況に応じて、痛みを緩和するための薬剤を使用します。
- 処置の際には、看護師が付き添い、医師と協働して赤ちゃんの痛みの緩和に努めています。

☆ご家族が痛みを緩和するためにできること

- ご希望に応じて、処置に立ち会い、赤ちゃんの痛み緩和ケアを行うことができます。ご家族がそばにいてくれることは赤ちゃんにとっても心強く、気持ちを落ち着かせることができます。ただし、ご家族が辛く感じる場合には、無理に立ち会う必要はありません。処置中はいったん退室することもできます。
- ホールディングにより痛みが緩和されることが知られています。丸まった姿勢、包み込まれること、優しく触られることで赤ちゃんの痛みが緩和されることが分かっています。
- 抱っこ、直接授乳、母乳を口に含ませること、カンガルーケア、おしゃぶりも痛みを緩和する効果があることが分かっています。

☆シヨ糖の使用について

- シヨ糖はスクロースともいれ、砂糖の主成分です。24%のシヨ糖液をごく少量赤ちゃんの口に含ませることで、処置時の痛み反応が減る事がわかっています。
- シヨ糖による痛み緩和は、欧米のNICUでは広く行われています。国内でも新生児の疼痛緩和に関するガイドラインで推奨されるようになったため、近年使用する施設が増えてきています。当センターでは2010年よりシヨ糖を使用した疼痛緩和ケアを行っており、新生児の疼痛緩和専用のシヨ糖製剤（ピーレスケア）を使用しています。
- シヨ糖による有害な合併症の報告はありません。シヨ糖による痛み緩和で赤ちゃんの成長発達にも良い効果があることが期待されていますが、成長発達への影響や味覚の変化など長期的なことについては十分なデータがありません。そのため、使用するタイミングや量を定めて少量ずつ慎重に使用しています。（原則4回/日まで）また、母乳以外のものを与えることに抵抗を感じる方もいらっしゃいますので、ご家族の希望に応じて使用しています。シヨ糖の使用に関して費用負担はありません。希望される方は以下にサインをお願いします。

シヨ糖製剤 ピーレスケアの使用を希望します

日付 _____ 年 _____ 月 _____ 日

赤ちゃんのお名前 _____

保護者 _____

続柄 (_____)

＜赤ちゃんの痛みを緩和するために＞

- 新生児・早産児は痛みに対応する力が未熟
- 繰り返される痛みは成長発達に影響を及ぼす可能性
- できるだけ痛みを減らすためにご家族と協力したい

医療者が行なっていること

- 動脈ライン・末梢中心静脈カテ
- 針・自動採血器（ランセット）
- 看護師が付き添って痛みのケア

ご家族ができること

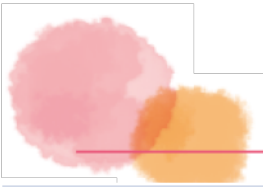
- そばにいる（つらい時は退室してもOK）
- ホールディング 包み込み
- 抱っこ、授乳、母乳をなめる、おしゃぶり・・・

シヨ糖の使用について



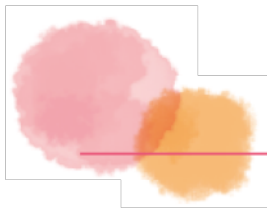
シヨ糖の使用について

- シヨ糖はスクロースともいい、砂糖の主な成分です。24%のシヨ糖液をごく少量赤ちゃんの口に含ませることで、**処置時の痛み反応が減る**事がわかっています。
- シヨ糖による痛み緩和は、**欧米のNICUでは広く行われています**。国内でも新生児の疼痛緩和に関する**ガイドラインで推奨されるようになったため、近年使用する施設が増えて**きています。当センターでは**2010年よりシヨ糖**を使用した疼痛緩和ケアを行っており、新生児の疼痛緩和専用のシヨ糖製剤（ピーレスケア）を使用しています。
- シヨ糖による有害な**合併症の報告はありません**。シヨ糖による痛み緩和で赤ちゃんの成長発達にも良い効果があることが期待されていますが、**成長発達への影響や味覚の変化など長期的なことについては十分なデータがありません**。そのため、使用するタイミングや量を定めて少量ずつ慎重に使用しています。（原則4回/日まで）また、母乳以外のものを与えることに抵抗を感じる方もいらっしゃいますので、**ご家族の希望に応じて使用**しています。シヨ糖の使用に関して**費用負担はありません**。希望される方は以下にサインをお願いします。



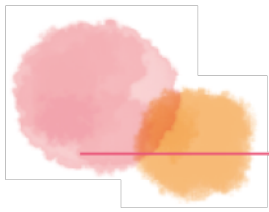
かちもない

書いたのは誰か？	新生児集中ケア認定看護師（疼痛緩和の研修会に複数回出席） 新生児科医師 NICU医療チームの承認を得て決定
違う情報と比べたか？	医師・看護師のチームで文献検討会 30本以上の論文・文献を読んだ
元ネタは何か？	「NICUに入院する新生児の痛みのケアガイドライン」 新生児看護学会編 日本周産期・新生児医学会、日本新生児成育医学会、日本麻酔科学会、日本小児外科学会 より委員派遣 Mindsガイドラインライブラリに収載 その他、医学論文、書籍、他施設の実践家からの情報
何のための情報か？	新生児の予後改善、QOLの向上 商業目的はない
いつの情報か？	2014年に初版作成 2016年に改訂 家族にできること の欄を追加した



おちたか

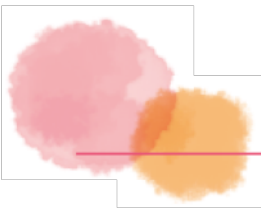
オプション (選択肢)	長所	短所	価値観
シヨ糖を使用する	<ul style="list-style-type: none">•処置時の痛み反応が減る•処置が短時間で終わる	<ul style="list-style-type: none">•長期的な影響が十分わからない•甘い物好きになる？	<ul style="list-style-type: none">•できるだけ痛みを減らしたい
シヨ糖を使用しない	<ul style="list-style-type: none">•シヨ糖の影響は考えなくて良い	<ul style="list-style-type: none">•処置時の痛み反応が出やすい•処置が長引く可能性	<ul style="list-style-type: none">•母乳以外のものをあげたくない



今後の課題

- 定期的な見直し
- 見やすいレイアウト
- もっと知りたい、他の情報と比べたい人に対しての情報リンク・出典の提示
- 出産・入院直後の家族に対する負担軽減
- 継続的なスタッフ教育

あなたが家族だったら、
どのような情報提供を望みますか??



なぜシヨ糖は24%なのか？

ディスカッションの
意見をもとに
追加したスライド

- ガイドラインでは、シヨ糖の濃度と投与量は確定していない
- 濃度比較の文献もいくつかあるが、確固たる根拠とはなっていない
- 24%シヨ糖を用いた研究が多くある
- 米国で先に販売された、新生児用シヨ糖製剤も24%

ちなみに・・・

24%シヨ糖はどのくらい甘いのか 他製品との比較

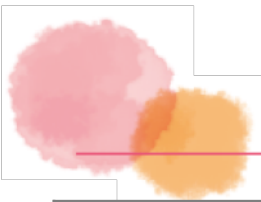
- コーラ 11%
- ケイツーシロップ（出生時に全員飲む） 16.3%
- 小児用シロップ剤 30～60%

シロップ製剤はかなり甘い

- かき氷のシロップ 糖度50～60度
- はちみつ 糖度80度

かき氷のシロップよりも、24%シヨ糖の方が甘いように感じたが、実際にはかき氷シロップの方が糖濃度が高い。
(要因：記憶との比較だった。氷にかけて薄めて食べるものなので甘さを感じづらい。)

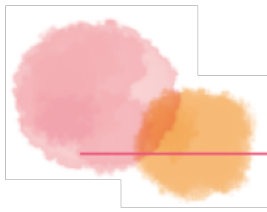
*糖度 1グラムのシヨ糖が 20℃ の水溶液100グラムに溶けているとき、その溶液値が1度



おちたか

ディスカッションの
意見をもとに
修正したスライド

オプション (選択肢)		長所	短所	価値観
シヨ糖を使用する		<ul style="list-style-type: none"> •処置時の痛み反応が減る •処置が短時間で終わる 	<ul style="list-style-type: none"> •長期的な影響が十分わからない •甘い物好きになる？ •痛みと甘みが結びつく？ 	<ul style="list-style-type: none"> •できるだけ痛みを減らしたい
シヨ糖を使用しない	母乳を与える	<ul style="list-style-type: none"> •シヨ糖の影響は考えなくて良い •母乳による害がない 	<ul style="list-style-type: none"> •シヨ糖より痛みの反応が大きい可能性 •母乳のストックが必要 •母乳取り違いのリスク 	<ul style="list-style-type: none"> •母乳以外のものをあげたくない
	つつみこみ・ホールディング	<ul style="list-style-type: none"> •シヨ糖による影響考えなくてよい •ケアによる害はない 	<ul style="list-style-type: none"> •シヨ糖より痛みの反応が大きい可能性 	<ul style="list-style-type: none"> •できるだけリスクを避けたい
	カンガルーケア・直接授乳を行う	<ul style="list-style-type: none"> •シヨ糖による影響考えなくてよい •ケアによる害はない 	<ul style="list-style-type: none"> •親がいない時間には実施できない 	<ul style="list-style-type: none"> •親が主体となってケアをしたい



今後の課題

ディスカッションの
意見をもとに
修正したスライド

- 定期的な見直し
- 見やすいレイアウト
- もっと知りたい、他の情報と比べたい人に対しての情報リンク・出典の提示
- 出産・入院直後の家族に対する負担軽減
- 継続的なスタッフ教育

- ショ糖はなぜ24%なのか？
- 長期的な影響についての情報は本当はないのか
例) 早期から子供に甘いものを与えた場合の影響についての報告ならあるのではないか
- ショ糖を使う使わないという2択だけでない選択肢の提示

あなたが家族だったら、
どのような情報提供を望みますか??